

栄ちゃんのカラオケ教室「風港」編

港を舞台に別れを惜しむ男と女の映像をイメージして歌い出します。

辛い別れを心に決めて港に佇む男に対して、

女は愛しい人が気持ちを翻して“冗談だよ”という言葉と共に自分のもとに帰って来てほしいと願っています。

基本的な事ですが、長調(メジャー)で書かれているこの歌は、明るい曲調ですが、

そんな気持ちを歌い上げる状況とは真逆の男の心理状態な訳です。

但し、声のトーンは極力前に声を出し、響かせる感じで、明らかに短調(マイナー)の歌との違いを意識を持って歌う事が肝要です。女は率直に今の気持ちを男に対して表しています。

男は別れたくない相手だけれども、無理に自分の気持ちを

押し殺してクールな表情で女に別れの言葉をかけ、女のもとを立ち去ろうと思いますが、其の気持ちを中々

断ち切ません。男は逡巡し、二人で歩を進めるとやがて船着場のはずれの小さな酒場に立ち寄ります。

暗い店内のカウンターの隅で寄り添う女を横にして、その思いを振り切るように酒を煽ります。

女も男の其の言葉を聴きたくも無いが、傍を離れたくない。

杯を重ねる毎に思わず本音がこぼれそうになりますが、

その気持ちを押しとどめるのは、浮き草稼業が身に着いて、所詮女を幸せに出来ない生来の流れ者。

自分の立場を重々解っているから、冗談めかして別れの寂しさを紛らすように無理に明るく振舞おうとします。

ストーリーのアウトラインはこんな感じですが、その話の展開を思い描きながら、歌い出す気持ちを整理します。

オーケストラのサウンドが割りと軽快なリズムを刻んで行きますので、そのスイングに揺られるような感じで歌い出します。イントロでドブロと言うスチールギターの一種の楽器が甘い音色を奏でます。

そのサウンドに身を委ねるような感じです。

遠くに船の汽笛が夜の静寂を切り裂くように、切れ切れに遠く近くに響き渡ります。この状況に二人の心が千々に乱れます。そんな情景を心に描きながら歌い出し二行の心の内を伝える事が大切です。

具体的に説明していきます。歌いだしのと〜ぎ〜れ〜の部分は言葉を立てて、

〜の部分はこぼしをたっぷり回して次の汽笛〜は思い切り強く張りのある声で突きます。

咽ぶ〜は、特にぶ〜の歌詞をたっぷりと歌い大きくバイブレーションを駆けます。

夜風、潮風、別れ風は定まらぬ方向に向かって海辺の風が吹き荒れるさまを描きながら、それぞれの風〜に表情をつけて下さい。三行目の濃い目の化粧で〜は語り口調で、隠しても〜は大きく歌い上げる感じで、

潤んで見える〜お前の睫毛〜はきっちりとインテンポでリズムをしっかりと刻む様に歌う事が大事です。

今夜ばかりは〜は繰り返しですから当然バリエーションを付けて、特に二回目の今夜ばかりは〜は声を揺らすように感情をたっぷり入れて万感の思いを込めて熱く語る感じで、気持ちを前に出して行きます。

そして最後の酔うに〜は、この歌で一番高い音が出てきますがなるべく地声で大きく歌い上げます。

中サビの潤んで〜の、で〜の音程も同じトップの音ですが、ここでは私はファルセット(裏声)を使っていますが、ラストのフレーズを盛り上げる為と、潤んで〜の表現が女性の姿を現している為、それぞれに異色の響きを作ってバリエーションをつける為に敢えて使っています。男性の方は頭部共鳴を習得するための発声のレッスンになるかも知れません。試して見て下さい。そして最後の酔うに〜酔えない〜わかれ〜酒〜。

激しくメロディラインが動きますからリズム、音程に気を付けて大きく歌い納めて下さい。

冒頭にも説明しましたが歌い出す前に、そのドラマのイメージを膨らませてその男の気持ちになって歌う事が一番大事です。どんな歌を歌う時も思い描いたイメージを大切にして下さい。

